

中濃農林事務所の普及活動状況 令和7年2月28日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■いちご 新規就農者への支援

2月5日、農業普及課では、いちごの新規就農者の巡回を行い、栽培状況の確認と今後の作業について助言をした。

石油ストーブを使用しているため、温度を高め維持することが難しく、ハウス内の最低気温は3℃前後まで下がる日もみられた。低温によりいちごの収穫までかかる日数は遅くなったが、病害の発生はなくハウス内は丁寧に管理されていた。

就農者からは温度管理が低いことについて質問されたため、3月に入って気温が高くなってくれば、収穫作業に追われる日が続き、株の手入れができなくなることを予想されるため、今のうちに病虫害防除などの手入れをしておくことを助言した。

農業普及課では、会話を通して就農者へ安心感を与えること、先を見越した管理ができるよう指導を継続していく。

(地域支援係)



【株の状態を確認】

■普及成果発表会 ひらく農業・中濃を開催

2月12日、普及指導活動成果発表会「ひらく農業・中濃」を、中濃農林事務所主催、中濃農業振興協議会共催で開催し、生産者、関係機関等75名が出席した。

岐阜県有機農業アドバイザーから「有機農業者が実践する土づくりの極意」を学び、土づくりの重要性を再認識した。

農業普及課からは「土づくりと施肥改善による暑さに強い水稻栽培」、「さつまいものコガネムシ類被害低減」と題して、活動の成果について発表した。

また、県農産園芸課から「みどり認定」に関する情報提供があった。

農業普及課は、今後も関係機関との連携を密に行い、地域農業の活性化に向けた活動に取り組んでいく。

(地域支援係)



【普及成果発表】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■夏秋なす 三者面談

2月4日・5日に、JAめぐみの中濃夏秋茄子生産出荷組合の三者面談が開催された。JAめぐみの担当者、農業普及課が、生産者と面談を行い、本年度の栽培の振り返りや次年度の栽培計画、目標について話した。

農業普及課からは、個人別の出荷データ、栽培・防除日誌を基に、収穫量、施肥量等の実績資料を生産者ごとに作成し、説明した。また、土壌診断データから次作ほ場の処方せんをとりまとめ、診断結果の説明を行った。

生産者からは、病虫害防除についての質問や、次年度の取り組みへの意気込みを聞くことができ、次作への意欲の高さを感じられた。

農業普及課では、今後も生産者の単収の向上に向けて生産出荷組合の支援を続けていく。
(地域支援係)



【面談の様子】

■円空さといも 収量・品質向上に向けた栽培研修会を開催

2月14日、円空さといも生産組合の栽培研修会が開催され、組合員24名が出席した。

JAめぐみからは、農薬の適正使用についての情報提供が行われた。農業普及課からは、令和6年度に実施した夏季高温下での収量・品質向上に向けた栽培試験の結果と今後の栽培についての研修を行った。出席した組合員らは、収量向上・丸いも率向上に向け、自身の栽培上の課題や今後の方針など活発な意見交換が行われ、みんなで円空さといもブランドを発展させようとする様子がうかがえた。

農業普及課では、来年度も引き続き夏期高温下での栽培試験を予定しており、円空さといも生産組合員の収量・品質の向上に向けて支援を行っていく。
(地域支援係)



【栽培研修会】

中山間地域を守り育てる対策

■中山間地域の水田農業の維持 中山間地域施策の勉強会の開催

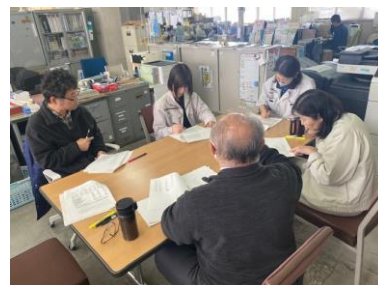
2月6日、中濃農林事務所内にて、同農林事務所の森農業振興課長を講師に招き、中山間地域や同地域の水田農業の維持発展のために、ほ場整備や水利の確保、地域保全などについてどのような施策が実施され、補助事業等の支援があるのかについて聴講した。

当管内では、武儀・上之保地域及び洞戸・板取地域などに、担い手の極めて少ない中山間地域が広がっており、現在、将来に向け利用しやすい農用地の確保に向けたほ場整備事業も始まっている。

今後は、持続的かつ安定的な営農が展開されるような営農組織づくりが重要な課題となるが、その第一歩として、各種の施策や支援策、補助事業について学ぶ必要があり、理解ができていなかった事業や施策支援策等について理解を深めることができた。

今回は、実際のほ場整備事業が実施されている現場にて、実質的なほ場や水利の整備状況を視察し一層の理解促進に努める。

(地域支援係)



【勉強会の様子】